

研究室一般公開（アンケート調査から）

山本真理 吉田 剛 古野邦雄

1 はじめに

当センターでは、環境週間関連行事として、各研究室の一般公開を実施しており、地質環境研究室では、この機会に地質環境教育の普及を図っている。2008年度は期間中計138名の見学者があった。これら見学者の意向等を把握し、次回の一般公開に反映させるため、展示等に関するアンケート調査を実施した。

2 調査方法

実施期間：2008年6月2日（月）～8日（日）

（研究室一般公開期間）

対象：地質環境研究室見学者

実施方法：アンケート用紙留置法、自記入式

調査項目：見学者の属性（年代、性別、居住地）、情報の入手方法、展示内容（「興味深かった展示」等）について。

3 調査結果

3・1 見学者の内訳

アンケート回答者は108名、回収率は78.3%である。うち公開講座、大学等からの団体見学者等を除いた「一般見学者」は、45名で全見学者138名の32.6%であり、小中学生とその引率者が2/3を占める。それ以外の「一般見学者」は、50代以上が多い。「団体見学者」では、大学生を除くと約2/3が男性で、60代以上の見学者が3/4を占める。

居住地は「一般見学者」に限ると回答者の約7割が千葉市内である。「研究室一般公開」の情報の入手先としては、「一般見学者」では、「職場・学校・友人等から」とするいわゆる口コミ情報が多く、ついで「チラシ」である。

3・2 展示内容について

「興味深かった展示」として回答者全体では、「地下水汚染、地下水流動模型」（全回答者の54%）、「液

状化実験」、「化石・岩石」が上位3項目である。しかし、このうち「化石・岩石」「地下水汚染等の模型」については、「学生」と「学生以外」で回答率に有意差（ $\alpha=0.05$ ）が認められた（図1）。

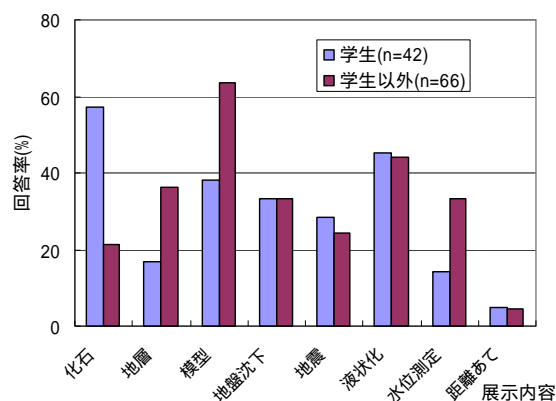


図1 「興味深かった展示」（学生と学生以外）

満足度については、回答者の92.8%が「満足」又は「概ね満足」と回答しており「不満足」とする回答はなかった。

「今後研究を強化してほしい分野」については、「地質(地下水)汚染」や「地震と液状化」と並んで「地球温暖化」への期待が高かった。

4 今後の研究室一般公開の課題等

今回のアンケートで好評であった「地下水汚染模型」等については、今後も継続していくが、見学者の属性を考慮した説明等を行っていく必要がある。また、「一般見学者」の77%が土日に入場しており、土日の公開が有効である。今後も、同様な調査を継続し、見学者の増加と満足度の向上を図っていく。（参考）

- 1) 山本, 吉田, 古野, 風岡, 楠田, 香川, 加藤, 酒井, 研究室公開における地質環境教育, 第18回環境地質学シンポジウム論文集, 159-164(2008)